

2018年5月23日

各 位

日本カトリック女性団体連盟 第44回 新潟総会 終了のご報告と御礼

新潟カトリック女性の会  
指導司祭 大瀧 浩一  
会長 橘 依理子

主の平和。皆様におかれましては、新緑の季節に聖霊の息吹を感じながらお過ごしのことと存じます。

さて、日本カトリック女性団体連盟 第44回 新潟総会が去る5月21日(月)、5月22日(火)にカトリック新潟教会等で開催されました。教会の母 聖マリアの最初の記念日になった5月21日に開催された総会には75名の参加があり、議事の承認の後、各加盟団体の活動報告が行われました。81名が参加した懇親会では、新潟の美味しい料理とお酒をいただきながら歌や踊りなどでの楽しい交流がありました。

2日目はロザリオの祈り(喜びの神秘)から始まりました。講演会ではタルチシオ菊地 功東京大司教様が「いのちへのまなざし～なぜ教会は人を助けるのか」と題し、2017年に日本カトリック司教団が発表した『いのちへのまなざし【増補新版】』を基に、私たちキリスト者の至上命題でもある「なぜ教会は人と助けるのか」に焦点を当てたご講演をしてくださいました(151名参加)。続いて菊地大司教様の主司式、連盟の顧問パウロ浜口末男司教様(大分教区)と9名の司祭団の共同司式で派遣ミサが行われ、浜口司教様の総会講評の後、各団体参加者、新潟教区からの参加者160名が再び自分の生活の場へと派遣されました。

準備から開催まで70名の方がご協力くださいました。共同司式をしてくださった神父様、ご協力くださった皆さま、当日ご参加くださった皆さまに心より御礼申し上げます。皆様のお力添えのおかげで2日間の日程が無事終了し、他団体からの参加者も喜びのうちに各地に派遣されていきました。

末筆ながら皆様に神さまからのいつくしみが豊かにありますようお祈り申し上げます。

祈りのうちに。

